



悩んで失敗して当たり前

校長 小川 秀人

全国的な天候不順の中、南東北を舞台にインターハイが開催された北日本では、雨や曇りの日が多く、夏らしい入道雲をほとんど見ることなく夏休みが終わってしまったような気がする。心配された熱中症も、夏休み全般を通して涼しかったことと、保健委員会を中心とした啓発活動が功を奏してか、救急搬送や入院といった大きな騒ぎもなく夏の諸活動を終えることができた。この夏の地元インターハイでは、天童で行われた総合開会式や、月山湖を舞台にしたカヌー競技など、大会役員・競技役員として多くの寒高生が活躍してくれた。アナウンスや選手先導、受付などの業務に明るい笑顔で当たっている生徒諸君の活躍を目にするたび、たいへん頼もしく、嬉しく感じたことであった。

吹奏楽部の県吹奏楽コンクール出場・銀賞受賞や、放送部の全国高校放送コンテスト、放送部・新聞部の全国高総文祭宮城大会参加など、七月末から八月初めにかけて大きな大会・コンクールが連続し、本校生も精一杯の演奏や発表を見せてくれた。全国入賞や東北大会出場への壁は厚かったが、全力を尽くしたその健闘を心から称えたい。また、インターハイ対応の合間をぬって、七月から八月にかけて行われた三年生の三者面談や進路講習、特別学習会なども、ほぼ予定通り終了することができた。ご指導頂いた方々に深く感謝したい。遠征や合宿などを含めた夏の部活動、生徒会・実行委員会を中心とした寒高祭の準備など、みんな暑い中よく頑張ってくれたと思う。

前期（一学期）終了まであとひと月。三年生は、A0・一般の推薦入試や公務員試験などがいよいよ本番を迎える。一・二年生も地区新人・県新人がすぐそこである。十代後半のこの時期は、**悩んで失敗して当たり前**。頑張っても努力しても思い通りに結果が出ないことも多い。そうしたときに、やけにならず、自分のできる精一杯の努力を重ねることで、人としての「根」が心の中に深く伸びて行くことを信じて欲しい。変化の激しい現代社会を、逞しく生き抜くためには、その「根」の深さこそが大切なのだ。さあ、前向きに努力を続けよう。

オープンスクール 2017 700人の参加で成功裡に終了！

8月4日(金)に市民文化会館と本校を会場に、本年度のオープンスクールが行われた。本校は来年度から探究コース設置が予定されており、その内容を知りたいと、担当者の説明に熱心に聞き入る参加者が多かった。また、学校紹介では、放送部制作の映像が流され、生徒会役員による工夫を凝らした「寒高生の日」が紹介されるなど、中学生にはわかりやすいと大好評であった。学校に移動しての校舎施設や部活動見学も合わせて、たいへんに充実した一日となった。

吹奏楽コンクール県大会 銀賞受賞 金賞まであと一歩の大健闘！！

7月31日(月)「やまぎんホール(県民会館)」を会場に、各地区を勝ち抜いた16校が参加して『全日本吹奏楽コンクール山形県大会・少人数編成の部』が行われました。本校吹奏楽部は、5番目に登場し堂々の演奏を披露して、満場の喝さいを浴びました。審査結果は、金賞受賞校とほとんど差のない銀賞受賞。厳しい練習を重ねた部員たちは、力を出し尽くし、十分な手ごたえを得たのではないかと思います。来年こそ金賞、そして東北大会出場を目指して、練習を重ねてもらいたいと思います。

【三年生校長面談終わる】

6月28日から始まった校長面談が、日程の合わなかった数名を除いて、8月3日に終了しました。「大学で何を学びたいのか、将来どのような職業を目指しているのか、自分の強みと弱みは何なのか…」三者面談と並行しての日程だったので、面談に臨んだ生徒はみな、真摯にかつ具体的に話をしてくれました。面談後すでに一か月以上が経過しています。三年生諸君は、この夏どのような頑張りを見せてくれたのでしょうか。安易に志望校のレベルを下げたり、受験科目を絞ったりせず、秋から冬へと続くこの厳しい時期に、精一杯もがいて、少しでも力をつけてもらいたいと願わずにいられません。“言い訳は進歩の敵”という話を夏休みの終わりにしました。若い時に「逃げグセ」をつけてしまうと、この先の人生において、「人」として絶対逃げてはいけない時にさえ、自分に言い訳をして逃げてしまうものです。あなただけが辛いわけではありません。ここが頑張りどころですよ。

寒高祭

三年生完全燃焼の二日間終わる

三学年主任の紺野先生の口ぐせをもじった今年の寒高祭のテーマ『いいがあ？寒高祭すっぞ～？すっからなあ！！』が示すとおり、寒高祭に対する三年生の思い入れの熱量は、一・二年生のそれを圧倒的に凌駕する。なにしろこれが、高校時代最後の「寒高祭」なのだ。準備から運営まで、生徒会執行部・寒高祭実行委員会を中心に、進路の不安を頭の隅に無理やり追いやって、三年生は全力で寒高祭と向き合い、そして完全燃焼してくれた、そう信じている。

8月25・26日の両日に行われた今年の寒高祭、オープニングは合唱コンクールであった。少しでも歌いやすい環境を作ろうと、タイムスケジュールを組みかえて合唱コンクールを冒頭にもってきたのだが、短い練習時間にもかかわらず、一年生は最高の取り組みをしてそれに応えてくれた。開祭式からは一気に雰囲気を変え、「祭り」を盛り上げていく。二部の文化部発表、そして三部「有志発表」「執行部企画」へ。三年生たちの渾身のパフォーマンスを目の当たりにして、きっと一・二年生たちの中にも、来年・再来年には自分たちのパフォーマンスをひっさげてステージに上がる者たちがきつといることだろう。二年生、来年は君たちの番だ。

二日目は一般公開日、同じ日に山形市内の主だった高校でも学校祭をやっており、集客がたいへんに難しい。600人の一般来場者は、上出来なのだろうが、満足していたら減少は止まらないので、工夫しよう。メイフラワータイムのテーマの一つにして、研究してみたらどうだろうか。